

音楽を通してつながり合う

～ドキュメンタリー映画「オハイエ！」

岩本ひろ子

オハイエは、仙台で始まった「とっておきの音楽祭」から生まれたドキュメンタリーで、2006年の音楽祭の様子を撮影したもの。全国で自主上映されており、小平でも東日本大震災で被災し、小平に避難してこられた方の呼びかけで、12月7日に上映会が実現しました。

音楽祭は実行委員会形式で運営され、仙台の中心部のあちこちをステージに、障害のある人もない人も共に歌い踊ります。脳性まひの青年シンガーソングライターluluさんのからだ全体での表現、笑顔がとびきり可愛いダウン症の知子さんの優しいリコーダーの音色。プロの笙(しょう)奏者でウィリアムズ症候群のYUUくんの幻想的な演奏が流れます。そしてフィナーレの参加者全員による「みんなちがってみんないい」の大合唱は圧巻。だれもが音楽を通してつながることができる——映像を通してわたしたちにストレートに伝えてくれました。



オハイエ上映後には市内の障がい者団体の方たちの合唱で盛り上がった。

ラムサール条約とは？

～シンポジウム「玉川上水 ラムサール条約登録の可能性をさぐる」に参加して

平野ひろみ

ラムサール条約は、湿地や水鳥を守る国際条約です。釧路湿原や日光の湿原、千葉県谷津干潟など46ヶ所登録されています。湿地とはあらゆる水に関係する場所で干潟や泥炭地、泉や用水路なども対象になります。ということは、玉川上水も対象にあてはまるのでは？ 多摩川の水をひいた玉川上水は、東京のほぼ真ん中を都心に向けて水と緑でつながっており、皇居や新宿御苑などに生息する生き物をささえる通り道として大きな役割をもっています。

文化財保護法に基づく史蹟に指定されている玉川上水の登録はいかにとの想いを馳せつつ、海を超えて上水の川面に下り立つ水鳥を思い浮かべながら、都市と自然の共生をめざした保護・育成活動に力をそそいでいくことが重要です。



市内東西に約8kmの区間を流れる玉川上水。四季折々の風景がみられる。

若者サポートステーションを訪問

日向みさ子

生きていく中での困難やつまずきは誰にでもありうることです。何かのきっかけで仕事に就けないでいる若者(39歳までを対象)を支援するために、厚生労働省では、全国に約160か所の地域若者サポートステーション(サポステ)を設置しています。都内には立川、三鷹、八王子、福生、調布、板橋、練馬、新宿、世田谷、足立と10のサポステがあり、キャリアカウンセリング、心の相談、就労支援セミナー、コミュニケーションセミナー、パソコン学習会、保護者相談等を行っています。

ひきこもりの自立支援などを行ってきたN

POや社会福祉法人が運営を担っており、本人からだけでなく家族からの相談もあるとのことでした。役所ではできない新たな発想での支援を行っており、まずはこのような支援機関があることの周知が重要だと感じました。



訪問したいばし若者サポートステーション NPO法人青少年自立援助センターが運営。自立のための合宿や教育支援、訪問事業などをサポステ開設以前から独自に行ってきた。